

蠟梅 Now

10月8日、ビッグニュースが飛び込んできた。暗い世相に一条の光明を与える快挙！！

スウェーデンのカロリンスカ研究所は8日、2012年のノーベル医学生理学賞を、さまざまな組織の細胞になる能力がある「人工多能性幹細胞（iPS細胞）」を開発した山中伸弥京都大教授（50）ら2人に授与すると発表した。

iPS細胞は生命科学研究の一大潮流をつくり、再生医療や創薬への利用も期待される画期的な成果。開発から6年のスピード受賞となった。日本人の受賞は2年ぶり19人目で、医学生理学賞は25年ぶり2人目。以降、マスコミ対応にも多忙な山中教授。

窺える箴言①；研究者は憧れの職業でなければならない。憧れから将来の夢を思い描くものであり、社会的な地位が低ければ、懸念される理系離れが止まるはずがない。

箴言②；研究者は油断をすると、他人の方法論を真似てしまう。こういう研究からはイノベーションは生まれない。本当のイノベーションは未知の領域でしか見つからない。

「何が良いのか悪いのかすぐには分からない。一喜一憂せず淡々と頑張るしかない」。決して順風満帆ではなかった研究者としての歩みを「人間万事塞翁（さいおう）が馬」と例え、述懐する。

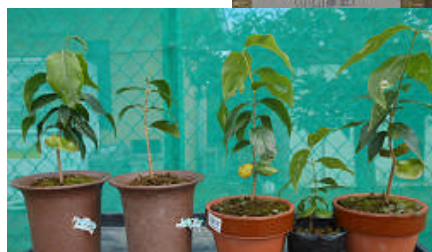
気分転換は鴨川でのジョギング。出張にもシューズを持参し、フルマラソンも走る。「研究や人生もマラソンと同じ。勝てなくても最後まで走り抜かなければならない。」

フェニックスの如く、がんばろう 日本！

閑話休題。

当法人のシンボルツリー「蠟梅」は、長かった残暑にへこたれることもなく、来る開花に向けて日々の営みに追われているのであろう、剪定を余儀なくされて、しょげているかのように見えるが、「元気でなければならない!!!」、その意気込みが窺える。

蠟梅2世のその後。昨年10月末に播種、11月半ばの発芽、間もなく1歳になる五つ子は、害虫の攻撃にもめげず、すくすく(?)と成長。さて、鉢から巣立って、大海原へ漕ぎ出す準備をどう進めていくのか、うれしい悩みが続く。



《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸
事務局長 大森 信
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7
TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)
E-mail : info@npo-ffk.or.jp
URL : http://www.npo-ffk.or.jp